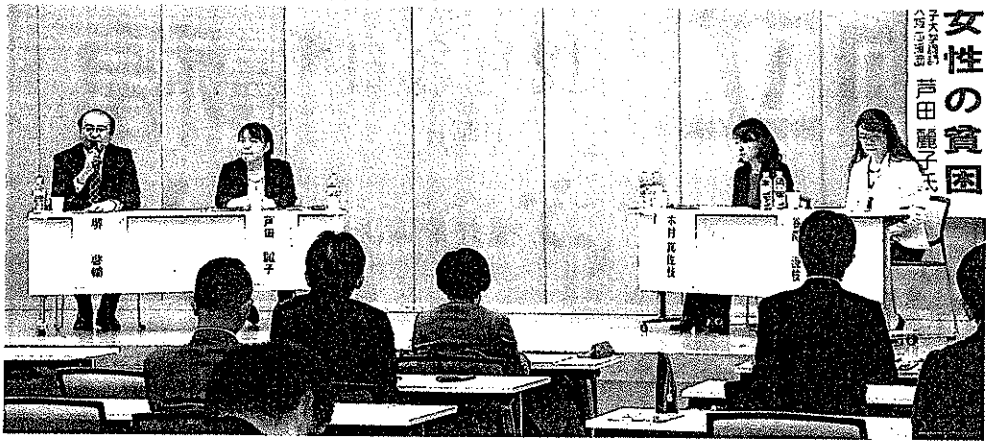
12/3
福井

女性の貧困 目を向けて

福井で「キャラバン」



シングルマザーらへの支援策などを考えたパネルディスカッション＝２日、福井市の県教育センター

独り立ちできる制度を

格差社会の解消などに向けた活動「反貧困キャラバン2017」（福井新聞社後援）は2日、福井市の県教育センターで開かれ、女性の貧困をテーマに、講演やパネルディスカッションが行われた。シングルマザーらは「目に見えない息苦しさの中で、生活するために必死で働いている女性がいることを知ってほしい」と十分認識されていない現状を指摘、制度改善の必要性を訴えた。（牧野将寛）

シングルマザーら訴え

キャラバンは、県内の弁護士会や司法書士、労働団体などでつくる実行委員会が開催。市民ら約100人が参加した。神戸親和女子大の芦田麗子講師（社会福祉学）が「見えない女性の貧困」と題し講演した。

大阪でシングルマザーへの支援活動を行っている芦田講師は「シングルマザーは生きづらい女性の代表となっている」と指摘。生活を立て直すために同行して生活保護を申請するなど、独自の支援活動を紹介した。

最低賃金の低さを例に「日本の社会保障制度は、男性の賃金で生計を立て、女性が家事や育児を担うことが前提。女性が働いても人間らしい生活をすることが難しい」と不備を強調した。

その後行われたパネルディスカッションで、シングルマザーらを支援する団体「女性の社会生活活動部フルード」（福井市）の木村真佐枝代表は「例えば子育てで言うと、『イクメン』などと男性には優しいが、女性は『当たり前』という社会が、貧困を見えにくくしている」と強調。連合福井非正規労働センターの谷澤澄枝さんは「女性が独り立ちできる十分な制度が整っていない」と批判した。